

近藤 功行 (KONDO, Noriyuki)

沖縄キリスト教学院大学 人文学部英語コミュニケーション学科 教授

沖縄キリスト教学院大学大学院 異文化コミュニケーション学研究科 教授

【プロフィール】

[取得学位、大学・機関、取得年]

琉球大学：博士（医学）、1993年

名古屋大学：博士（文学）、2006年

[専門分野]

医療福祉学・健康科学・医療人類学・死生学



[研究分野]

- ① 沖縄県内の特別養護老人ホームにおける儀礼・高齢女性を中心とした調査研究
伝統的宗教、死生観、遺体観、高齢女性 [研究分野：医療社会学、文化人類学・民俗学、公衆衛生学・健康科学（個人研究）うるま財団 1987-継続中。]
- ② 死の場所をめぐる公衆衛生・人類生態学的研究-変容する南島文化の現況から-
人類生態学、死学、与論島、在宅ターミナルケア、自宅死 [研究分野：医療社会学、文化人類学・民俗学、公衆衛生学・健康科学（個人研究）科研 1986-継続中。]
- ③ 死に関する公衆衛生・人類生態学的研究-レプラ・ホスピスを中心として ハンセン病、ホスピス、生と死 [研究分野：公衆衛生学・健康科学、皮膚科学、医療社会学（個人研究）トヨタ財団 1986-継続中。]
- ④ 「適寿（Appropriate Age）」当該用語樹立に向けた学際的研究
健康いう病（健康幻想）、文化的差異、エコロジー、人間行動、医療人類学、化学・物理学、長寿、長寿科学 [研究分野：身体教育学、文化人類学・民俗学、公衆衛生学・健康科学（個人研究）科研 1986-継続中。]
- ⑤ 身体・知的・精神障害者と高齢者を考える視点 - 精神障害者の社会復帰、雇用とその将来像 - 3障害、精神障害者、障害者雇用、障害者雇用率、共生 [研究分野：社会学、精神神経科学、公衆衛生学・健康科学（個人研究）科研 2000-継続中。]
- ⑥ 生命の科学と倫理を考える視点
生命の科学と倫理、生、命、QOL、倫理学（個人研究） 1994-継続中。
- ⑦ ハンセン病医学に関する公衆衛生学的研究（笹川医療医学研究財団）
- ⑧ 終（つい）の看取りと死亡場所をめぐる死生学的研究
- ⑨ 障害者雇用に関する保健・医療・福祉的アプローチ



- ⑩ 精神障害者の雇用の重要性をめぐる研究
精神障害 障害者雇用 障害者雇用率 法定雇用率 医療社会学 境界医学
奄美大島 与論島 [平成 17 年度・平成 18 年度科学研究費補助金。]
研究分野：地域研究、社会学、社会福祉学 1992- 科学研究費補助金
- ⑪ 「国立・県立（公立）病院・施設」の開設意義と現状を考究する医療・保健アウト
カムの研究 医療・保健アウトカム 国立・県立（公立）病院・施設の存続意義
先駆的役割 モデル病院（施設）赤字経営と病院（施設）の撤廃、移譲 サービ
スの質 利用者本位 2008 年 9 月期～実施内容。[研究分野：医療社会学、
衛生学、公衆衛生学・健康科学（個人研究） 2008-現在]
- ⑫ 我が国の周産期医療をめぐる課題解決に向けた医学教育学的研究 地域周産
期母子医療センター 総合周産期母子医療センター 生と死 生まれる病院 死
ぬ病院 産婦人科医不足 医局制度 離島医療 産婦人科科学 [研究分野：
産婦人科学（個人研究） 2009-継続中。]
- ⑬ がん治療をめぐる公衆衛生学・予防医学的研究 [2015-継続中。]
- ⑭ 植物工場をめぐる医療福祉学的研究 [2017-継続中。]

[研究（教育）職歴等]

- ・沖縄キリスト教学院大学人文学部英語コミュニケーション学科教授 2004-
（[文部科学省／大学設置審議会教員組織審査] 2003(平成 15)年 9 月期
専門委員会＝『保健衛生学』分野，判定表語＝合格，判定職＝教授）
- ・沖縄キリスト教学院大学大学院異文化コミュニケーション学研究科教授 2009-
（[文部科学省／大学設置審議会教員組織審査] 2007(平成 19)年 9 月期
専門委員会＝『保健衛生学』分野，（一部は『文化人類学分野』で審査受け
判定表語＝合格，判定職＝教授）
- ・大学共同利用機関法人（旧文部科学省）国際日本文化研究センター客員教授
2005 年度（小松和彦教授／受入）
- ・鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻非常勤講師（2002 年～2004 年・2010
年／保健学科新設設置科目で審査受）／特別講義（作業療法学講座）2015 年
度・琉球大学医学部医学科衛生学公衆衛生学講座非常勤講師 2012 年度・
2013 年度・2017 年度・2018 年度（チューター指導）2009 年度～2019 年度非常
勤講師。
- ・熊本県立大学総合管理学部総合管理学科特別講義 2018 年度・2019 年度・2020
年度・2021 年度
- ・その他
沖縄県立看護大学看護学部（2005 年度）・放送大学沖縄学習支援センター（2012
年度）・鹿児島大学医学部（2015 年度）講義。



[担当科目]

- (人文学部) 表現技法／フレッシュマンセミナー(2018年度まで)、生命の科学と倫理、健康の科学、生活環境論、介護等体験(2016年度まで)、インターンシップ(2014年度・2015年度)、卒業研究(演習)Ⅰ・Ⅱ
- (大学院) 健康科学特論、死生学特論、比較人文学特論、調査研究法特論(オムニバス／2014年度のみ単独)／リサーチプロジェクト(分担)、修士論文指導
- (短大) 老人福祉論(保育科:隔年担当 2013年度まで)

【研究活動業績】

[研究業績(主要論文・著書)]

(書籍一覧)

1. しぬー生きることと死ぬことー(分担執筆)、『ライフロング・ソシオロジー』(1991)
出版社:東海大学出版会
2. 南島における死-終末行動と死者儀礼を中心に-(分担執筆)、『沖縄の人と心』(1994)
出版社:沖縄の人と心 九州大学出版会
3. 高齢者の生と死-与論島における在宅・終末期ケア-(分担執筆)、『高齢者教育論』(1997)
出版社:東信堂
4. 健康という病-健康幻想(分担執筆)、『幸福祈願』(飯島吉晴編)(1999)
出版社:筑摩書房(ちくま新書 196)
5. 高齢者の社会的役割(分担執筆)、『長寿の要因-沖縄のライフスタイルと疾病』(監修・編集:琉球大学医学部第三内科学講座 柘山幸志郎教授,琉球大学医学部長)(1999)
出版社:九州大学出版会
6. (3)人生を生きる人間③「文化・儀礼・宗教・祭祀」(分担執筆)、『介護福祉学習辞典』(学生版と2種類あり)(2003 2007(改訂版第2版刊行))
出版社:医歯薬出版株式会社
7. 医療福祉からみた鹿児島ー与論島における死生観をめぐる調査研究からー(分担執筆)、『隼人学ー地域遺産を未来につなぐ』(2004)
出版社:志學館大学生涯学習センター隼人町教育委員会(編)、南方新社(鹿児島市)



8. 「17 難病」20 語 (X 連鎖遺伝病 筋萎縮性側索硬化症 (ノルー・ゲーリック病) クロイツフェルト・ヤコブ病 後縦靭帯骨化症 再生不良性貧血 シャイ・ドレーガー症候群重症筋無力症 神経難病 進行性筋ジストロフィー スモン 脊髄小脳変性症 特発性大腿骨壊死症 難病 (ノ認定) パーキンソン病 バージャー病 バット・キアリ症候群 ハンセン病 ハンチントン舞蹈病 ベーチェット病 ライソゾーム病)、『福祉のための医療用語辞典』(宮原伸二(編)) 第4章 疾病要因に由来する用語 ~5 難病 全 20 項目~ pp.178 - pp.186.(近藤功行:担当分)。ただし、この頁の中で、p.179 に「ジストニ」(宮原伸二)右 7 行あり。(2006)
出版社:創元社
9. 「漢方」「鍼灸」「フーチーバー」「民俗医療」「薬草」「薬用動物」「ヤブー」(分担執筆)、『沖縄民俗学辞典』(分担執筆)(2008)、塩月亮子(他ノ編)
出版社:吉川弘文館
10. 死の儀法 在宅死に見る葬の礼節・死生観(編著:近藤功行・小松和彦)(2008)
出版社:ミネルヴァ書房
11. 1 近藤功行:高齢者が高齢社会で幸せになるために—ノーマライゼーション・QOL の視点から—、水野喜代志(編)実践と理論から学ぶ高齢者福祉、保育出版社、pp.53 - pp.55、2009
12. 近藤功行:与論島との出会いとフィールドワーク、pp.216 - pp.231、(Ⅲ部 日本—現代と結ぶ 近藤功行 与論島との出会いとフィールドワーク pp.xv - pp.xvi)、和崎春日(編)、響きあうフィールド、躍動する世界、刀水書房(東京)、全 785、2020

(外部競争的獲得資金)

1. 平成 17 年度科学研究費補助金(日本学術振興会研究費補助金:基盤研究(C)):研究代表者
研究課題名:精神障害者、回復者の就労をめぐる医療社会学的研究(課題番号:17590465) 【160 万円】
2. 平成 18 年度科学研究費補助金(日本学術振興会研究費補助金:基盤研究(C)):研究代表者
研究課題名:精神障害者、回復者の就労をめぐる医療社会学的研究(課題番号:17590465) 【150 万円】
3. ひらめき☆ときめき サイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI(研究成果の社会還元・普及事業)平成 20 年度選定(日本学術振興会)2008 年 4 月 18 日(金)付け選定結果通知あり [日本学術振興会によるこの助成は申請金額の満額獲得となる] 【60 万円】



日本学術振興会と所属機関が業務委託契約書を交わした委託金額は、「624000円(消費税及び地方消費税を含む。）」とする金額)→満額採択の60万円で記載。

プログラム名:障害者雇用の大切さを学ぶ

4. 平成 22 年度科学研究費補助金(日本学術振興会研究費補助金:基盤研究(C)):研究代表者
研究課題名:4離島における死生観教育の展開と展望を探る医学教育的研究(課題番号:22590494)【130万円】
5. 平成 23 年度科学研究費補助金(日本学術振興会研究費補助金:基盤研究(C)):研究代表者
研究課題名:4離島における死生観教育の展開と展望を探る医学教育的研究(課題番号:22590494)【104万円】
6. 平成 24 年度科学研究費補助金(日本学術振興会研究費補助金:基盤研究(C)):研究代表者
研究課題名:4離島における死生観教育の展開と展望を探る医学教育的研究(課題番号:22590494)【80万円】
7. ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI(研究成果の社会還元・普及事業)平成 22 年度選定(日本学術振興会)【41万円】
プログラム名:医歯薬学系及び保健・福祉系の立場でみる精神障害者理解の重要性
8. ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI(研究成果の社会還元・普及事業)平成 23 年度選定(日本学術振興会)【41万円】
プログラム名:医歯薬学系、保健・福祉系に重要な精神障害者理解・雇用の視点
9. ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI(研究成果の社会還元・普及事業)(日本学術振興会[事業]・沖縄県教育委員会[後援]、外来講師=恵川龍一郎(鹿児島県奄美市・明りの家所長))、2013年8月10日(土)、沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学シャローム会館1-1教室 依託金額 444,000円
プログラム名:医療・保健・福祉分野、教職を目指す人たちへ—精神障害者・回復者理解と就労を学ぶ—
10. ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI(研究成果の社会還元・普及事業)(日本学術振興会[事業]・沖縄県教育委員会[後援]、外来講師=恵川龍一郎(鹿児島県奄美市・明りの家所長))、2016年8月13日(土)、沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学シャローム会館1-1教室(A4版冊子 157頁=自家製版(背表紙付け)、A4版冊



子 24 頁＝自家製版(冊子)、A4版冊子 55 頁＝自家製版(講座終了後(冊子)作成)・配布)

プログラム名：精神障害者・回復者雇用の重要性—医療・保健・福祉分野及び教職課程履修の上で—

11. ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI(研究成果の社会還元・普及事業)(日本学術振興会[事業]・沖縄県教育委員会[後援]、外来講師＝恵川龍一郎(鹿児島県奄美市・明りの家所長))、平成29(2017)年8月12日(土)予定

プログラム名：障害者雇用の大切さを学ぶ視点

12. ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI

(研究成果の社会還元・普及事業)(日本学術振興会[事業]・沖縄県教育委員会[後援]、外来講師＝恵川龍一郎(鹿児島県奄美市・明りの家所長))、2018年8月11日(土)

プログラム名：障害者雇用の重要性とその課題

表1 日本学術振興会開催(沖縄県教育委員会後援)ひらめき☆ときめきサイエンス実施状況

-
- 採択1 2008(平成20)年度：障害者雇いを学ぶ
【(9校30名参加)(9校30名申込み)全員参加。】
- 採択2 2010(平成22)年度：医歯薬学系及び保健・福祉系の立場でみる精神障害者理解の重要性
【(11校32名参加)(11校39名申込み)高校総体影響で1校6名、その他1校1名欠席。】
- 採択3 2011(平成23)年度：医歯薬学系、保健・福祉系に重要な精神障害者理解・雇用の視点
【(3校9名参加)(6校18名申込み)台風影響派生で当日日程を変更。そのため、参加人数に影響が出る。】
- 採択4 2012(平成24)年度：医療・保健・福祉系の立場で必要となる精神障害者・回復者理解の重要性
【(6校26名参加)(7校27名実施申込み)1校1名欠席。】
- 採択5 2013(平成25)年度：医療・保健・福祉分野、教職を目指す人たちへ—精神障害者・回復者理解と就労を学ぶ—
【(5校21名実施申込み)2校7名欠席。】
- 採択6 2015(平成27)年度：精神障害者・回復者雇用の重要性—医療・保健・福祉分野を目指す上で—
【(7校15名実施申込)1校1名欠席。】



採択7 2016(平成28)年度:精神障害者・回復者雇用の重要性—医療・保健
・福祉分野及び教職課程履修の上で—

【(7校37名実施申込)1校4名欠席。】

採択8 2017(平成29)年度:障害者雇用の大切さを学ぶ視点

【(7校26名実施申込)4校7名欠席。】

採択9 2018(平成30)年度:障害者雇用の重要性とその課題

【(9校23名実施申込)1校1名欠席。】

(研究報告書)2008～

- 1.近藤功行:ひらめき☆ときめきサイエンス=科学研究費助成事業(研究成果
公開促進費(研究成果公开发表(B)(ひらめき☆ときめきサイエンス～よう
こそ大学の研究室へ～KAKENHI)))業務完了報告書、『2008(平成20)
年度:障害者雇いを学ぶ』、全274、沖縄コロニー印刷(浦添市)、2008
- 2.近藤功行:ひらめき☆ときめきサイエンス=科学研究費助成事業(研究成果
公開促進費(研究成果公开发表(B)(ひらめき☆ときめきサイエンス～よう
こそ大学の研究室へ～KAKENHI)))業務完了報告書、『2010(平成22)
年度:医歯薬学系及び保健・福祉系の立場でみる精神障害者理解の重要
性』、全453、沖縄コロニー印刷(浦添市)、2010
- 3.近藤功行:4離島における死生観教育の展開と展望に関する医学教育的研
究、平成22(2010)年度科学研究費補助金(基盤研究(C)一般)研究成
果報告書(平成22～平成24年度:採択(申請分野)境界医学領域申請)
課題番号:22590494、全383、沖縄コロニー印刷(浦添市)、2011
- 4.近藤功行:ひらめき☆ときめきサイエンス=科学研究費助成事業(研究成果
公開促進費(研究成果公开发表(B)(ひらめき☆ときめきサイエンス～よう
こそ大学の研究室へ～KAKENHI)))配布資料、『2011(平成23)年度:
医歯薬学系、保健・福祉系に重要な精神障害者理解・雇用の視点』、全
427、沖縄コロニー印刷(浦添市)、2011
- 5.近藤功行:ひらめき☆ときめきサイエンス=科学研究費助成事業(研究成果
公開促進費(研究成果公开发表(B)(ひらめき☆ときめきサイエンス～よう
こそ大学の研究室へ～KAKENHI)))配布資料、『2012(平成24)年度:
医療・保健・福祉系の立場で必要となる精神障害者・回復者理解の重要性』、
2012年度 本プログラムをご理解いただく上で、全175、沖縄コロニー印
刷(浦添市)、2012(a)
- 6.近藤功行:ひらめき☆ときめきサイエンス=科学研究費助成事業(研究成果
公開促進費(研究成果公开发表(B)(ひらめき☆ときめきサイエンス～よう
こそ大学の研究室へ～KAKENHI)))配布資料、『2012(平成24)年度:



医療・保健・福祉系の立場で必要となる精神障害者・回復者理解の重要性』、
全 344、沖縄コロニー印刷(浦添市)、2012(b)／

(1)近藤功行：2012年度 ひらめき☆ときめきサイエンス 追加資料、全 19(A4
版両面)、自家製本(補足冊子)、2012(c)

7.近藤功行：4離島における死生観教育の展開と展望に関する医学教育的研
究、平成22(2010)年度科学研究費補助金(基盤研究(C)一般)研究成
果報告書(平成22～平成24年度:採択(申請分野)境界医学領域申請)
課題番号:22590494、全 209、沖縄コロニー印刷(浦添市)、2012

8.近藤功行：ひらめき☆ときめきサイエンス＝科学研究費助成事業(研究成
果公開促進費(研究成果公开发表(B)(ひらめき☆ときめきサイエンス～よう
こそ大学の研究室へ～KAKENHI))配布資料、『2013(平成25)年度：
医療・保健・福祉分野、教職を目指す人たちへー精神障害者・回復者理解
と就労を学ぶー』、全 290、沖縄コロニー印刷(浦添市)、2013(a)

(1)近藤功行：ひらめき☆ときめきサイエンス 科学研究費紹介冊子、全 19(A4
版両面)、自家製本(補足冊子)、2013(b)

(2)近藤功行：ひらめき☆ときめきサイエンス 補足資料、全 57(A4 版両面、うち
2頁 A3 版折り込み)、自家製本(補足冊子)、2013(c)

9.近藤功行：4離島における死生観教育の展開と展望に関する医学教育的研
究、平成22(2010)年度科学研究費補助金(基盤研究(C)一般)研究成
果報告書(平成22～平成24年度:採択(申請分野)境界医学領域申請)
課題番号:22590494、全 166、沖縄コロニー印刷(浦添市)、2013

10.近藤功行：4離島における死生観教育の展開と展望に関する医学教育的研
究、平成22(2010)年度科学研究費補助金(基盤研究(C)一般)研究成
果報告書(平成22～平成24年度:採択(申請分野)境界医学領域申請)
課題番号:22590494、全 401、沖縄コロニー印刷(浦添市)、2013

11.近藤功行：ひらめき☆ときめきサイエンス＝科学研究費助成事業(研究成
果公開促進費(研究成果公开发表(B)(ひらめき☆ときめきサイエンス～よう
こそ大学の研究室へ～KAKENHI))配布資料、『2015(平成27)年度：
精神障害者・回復者雇用の重要性ー医療・保健・福祉分野を目指す上でー』、
全 425(自家製本:A4 版両面)、2015

12.近藤功行：ひらめき☆ときめきサイエンス＝科学研究費助成事業(研究成
果公開促進費(研究成果公开发表(B)(ひらめき☆ときめきサイエンス～よう
こそ大学の研究室へ～KAKENHI))配布資料、『2016(平成28)年度：
精神障害者・回復者雇用の重要性ー医療・保健・福祉分野及び教職課程履
修の上でー』、全 157(自家製本:A4 版両面)、2016(a)

(1)近藤功行：ひらめき☆ときめきサイエンス 科研費説明、全 24(自家製本:A4
版両面)、2016(b)

(2)近藤功行：ひらめき☆ときめきサイエンス 補足資料、全 55(自家製本:A4
版両面)、2016(c)



13. 近藤 功行：ひらめき☆ときめきサイエンス＝科学研究費助成事業（研究成果公開促進費（研究成果公开发表（B）（ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI））配布資料、『2017（平成29）年度：障害者雇用の大切さを学ぶ視点』、全 463（自家製本：A4 版両面）、2017（a）
- (1) 近藤 功行：ひらめき☆ときめきサイエンス 科研費説明、全 17（自家製本：A4 版両面）、2017（b）
- (2) 近藤 功行：ひらめき☆ときめきサイエンス 補足資料、全 138（自家製本：A4 版両面）、2017（c）
14. 近藤 功行：ひらめき☆ときめきサイエンス＝科学研究費助成事業（研究成果公開促進費（研究成果公开发表（B）（ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI））配布資料、『2018（平成30）年度：障害者雇用の重要性とその課題』、全 433（自家製本：A4 版両面）、2018（a）
- (1) 近藤 功行：ひらめき☆ときめきサイエンス 08 月 11 日（土）当日から、全 301（自家製本：A4 版両面）、2018（b）

（学術雑誌）

1. 安保 英勇・與古田 孝夫・築瀬 誠・江崎 一朗・木ノ上 高章・近藤 功行：精神障害者、回復者の就労を探る視点—自立支援をめぐる社会の動きと奄美大島「明りの家」訪問記録から—、第 38・39 回 沖縄県公衆衛生学会誌、pp.62. - pp.66.（合併号）、2008
2. 近藤 功行・與古田 孝夫・築瀬 誠・江崎 一朗・木ノ上 高章・安保 英勇：精神障害者、回復者の就労を探る視点—就労、福祉的就労、医学的就労、企業就労の重要性を探る視点—、第 38・39 回 沖縄県公衆衛生学会誌、pp.67. - pp.71.（合併号）、2008
3. 近藤 功行ほか：テーマ DNAR と尊厳ある終末期医療について、沖縄県医師会報 45 巻 7 号（2009 年 7 月号）抜粋記事、pp.21(757) - pp.33(769)（部分登場）、2009
4. 近藤 功行：日本人の死生観の変遷—民俗学・文化人類学の視点から—、大阪府保険医協会、2009 年 8・9 月号（通巻 512 号）、pp.36 - pp.39、2009
5. 近藤 功行：胃瘻・人工呼吸器を考える視点—高齢者・後期高齢者でふりかかる疾患も加味して—、沖縄県公衆衛生学会誌第 46・47 回（合併号）、pp.12-pp.18、2016
6. 近藤 功行：沖縄県内各自治体の集団検診時における PSA 検査普及の重要性—対策型がん検診・任意型がん検診の位置づけの中で—、沖縄県公衆衛生学会誌第 46・47 回（合併号）、pp.47-pp.51、2016



7. 近藤功行：前立腺癌の早期発見に向けた取り組み—癌の早期発見につながる PSA 検査導入が明暗を別ける事例から—、沖縄県公衆衛生学会学会誌第 48 回・49 回合併号、pp.22-pp.29、2018
8. 近藤功行：在宅死亡の与論島、その動向を見据える視点—1986 年 8 月から現地調査を開始した中で—、沖縄県公衆衛生学会第 48 回・49 回合併号、pp.47-pp.53、2018
9. 近藤功行：人々の会話、現代社会から見えてくるもの—治療・痛み・死生観・ユタ・終末行動・終末期医療・AI—、日本保健医療行動科学会雑誌第 33 巻第 2 号、日本保健医療行動科学会、pp.36-pp.39(シンポジスト講演)、2018
10. 近藤功行：障害者雇用の重要性—精神障害者雇用に至るまでの視点—沖縄県公衆衛生学会第 50 回・51 回合併号、2021(発刊予定・原稿提出中)
11. 近藤功行：障害者雇用における評価法の確立に向けて—「障害」用語の表記、沖縄県公衆衛生学会第 50 回・51 回合併号、2021(発刊予定・原稿提出中)

(学会口演(平成 16(2004)年～))

1. 日本民族衛生学会第 31 回沖縄地方会、平成 16 年 2 月 20 日(浦添市ハーモニーセンター)
「医療福祉教育の展開を図る視点—「精神障害児」の表記をめぐる視点を通して—」
○近藤功行
2. 日本民俗学会第 56 回年会、平成 16 年 9 月 3 日(園田学園女子大学(兵庫県尼崎市))
「与論島の在宅死を支える民俗事象」
○近藤功行
3. 人類動態学会西日本地方会第 30 回大会、沖縄キリスト教学院大学、平成 16 年 12 月 11 日(土)[本学会開催にあたって、学会長を担当：志學館大学で開催時の学会長担当に続き、本大会で 2 回目となる担当及び開催校を引き受け：10 演題の応募あり]
「長寿と健康の科学—与論島の調査が投げかけるもの—」(特別講演)
○近藤功行(学会長講演：担当)
4. 日本民族衛生学会第 32 回沖縄地方会、平成 17 年 3 月 16 日(水)琉球大学研究者交流施設・50 周年記念館
○近藤功行
「『生命の科学と倫理』に関する教育を考える視点」
[一般演題 V 学校保健領域の 3 演題の座長も担当]



5. 日本民俗学会第57回年会、平成17年10月9日(日)東京大学駒場キャンパス
「死生観・宗教観・世界観と障害者観を探る視点」
○近藤功行
6. 人類働態学会西日本地方会第31回大会、於：九州大学大橋キャンパス；九州大学芸術工学研究院人間生活システム部門人間工学講座(旧：九州芸術工科大学)、平成17年12月3日(土)幹事会出席(この先、2年間「幹事」となる)
「難病—神経内科学と神経難病を考える視点—」(仮題：2005年09月現在→決定)
○近藤功行
7. 西日本社会学会第64回大会自由報告部会、於：広島大学東広島キャンパス法学部・経済学部講義棟；平成18年5月20日(土)～21日(日)
「障害者雇用の中で法定雇用率に精神障害者がカウントされた意義を考える」(平成17年度科学研究費調査報告を兼ねる)
○近藤功行
8. ◎人類働態学会西日本地方会第32回大会、於：宮崎市内(国立病院機構宮崎東病院デイケア棟)；平成18年12月02日(土)～03日(日)(アンダーラインが口演日)(他、座長4演題を担当)(科研費関連の共同研究は安保英勇東北大学大学院助教授が口演)。
□『『生命の科学と倫理』関連内容のここ3年間の時事動向を押さえる教材研究—難病関連内容を補足して—』
○近藤功行
□「障害者雇用の重要性—精神障害者、回復者の就労を探る視点を中心に—」
○安保英勇 1)・與古田孝夫 2)・築瀬誠 3)・江崎一朗 4)・木ノ上高章 5)・近藤功行 6)
1)東北大学大学院教育学研究科、2)琉球大学医学部(琉球大学大学院保健学研究科)、3)鹿児島大学医学部(鹿児島大学大学院保健学研究科)、4)志学館大学法学部、5)東海大学医学部、6)沖縄キリスト教学院大学人文学部
9. ◎第38回沖縄県公衆衛生学会、平成19(2007)年1月26日(金)於：那覇市自治会館；12月15日(金)主催：沖縄県、(財)沖縄県公衆衛生協会
□「精神障害者、回復者の就労を探る視点—奄美大島「明りの家」訪問記録から—」
○安保英勇 1)・與古田孝夫 2)・築瀬誠 3)・江崎一朗 4)・木ノ上高章 5)・近藤功行 6)
1)東北大学大学院教育学研究科、2)琉球大学医学部(琉球大学大学院保



健学研究科)、3)鹿児島大学医学部(鹿児島大学大学院保健学研究科)、
4)志学館大学法学部、5)東海大学医学部、6)沖縄キリスト教学院大学人
文学部

□「精神障害者、回復者の就労を巡る視点—就労：福祉的就労、医療的就
労、企業就労、の重要性を巡る視点—」

○近藤功行 1)・與古田孝夫 2)・築瀬誠 3)・江崎一朗 4)・木ノ上高章 5)・安
保英勇 6)

1)沖縄キリスト教学院大学人文学部、2)琉球大学医学部(琉球大学大学院
保健学研究科)、3)鹿児島大学医学部(鹿児島大学大学院保健学研究科)、
4)志学館大学法学部、5)東海大学医学部、6)東北大学大学院教育学研
究科

(註：発表抄録集で 3)4)の所属が逆になっているため、口演時にそのことを述
べる。口演時、口演内容から安保英勇が先に発表し、近藤功行がその後
続いた。座長の仲本晴男先生(沖縄県立総合精神保健福祉センター所長に、
平成 17 年度科学研究費中間報告集を贈呈する))

10. 西日本社会学会第 65 回大会、平成 19(2007)年 5 月 19 日(土)於：下関
市立大学 B 講義棟 223 教室 13:00～13:30

○近藤功行：精神障害者、回復者の就労を考える視点—奄美大島「明りの
家」の訪問を通して—

11. 11. 日本民俗学会第 59 回年会、平成 19(2007)年 10 月 6 日(土)・7 日
(日)11:00～、於)京都市・大谷大学本部キャンパス G 会場 1210 教室、「沖
縄・奄美の民間療法の現状」

○近藤功行

12. 第 39 回沖縄県公衆衛生学会一般演題、平成 19(2007)年 11 月 9 日(金)、
於)浦添市産業振興センター“結の街”(10:30～の「老人保健」領域の 3 演題
で口演)

「高齢者の終末期医療と終の場をめぐる問題—ある 85 歳・84 歳夫婦の離島
をめぐる経緯からの考察—」

○近藤功行・安保英勇

13. 人類働態学会西日本地方会、2007 年 12 月 8 日(土)、於)宗像ユリックス
(会議室 2)福岡県宗像市

「青壮年男子層の死亡抑制による長寿率向上に関する人類働態学的研究」

○近藤功行

14. 第 11 回日本健康福祉政策学会学術大会 Okayama2007、2007 年 12 月 8
日(土)・9 日(日)、於)岡山プラザホテル(事務局：NPO 法人総合ケアシーザル
(岡山市)ポスターセッション(医療福祉活動②)13:00～14:00)

「ある高齢者夫婦の離島を通してみる今後の福祉施策のあり方に関する一提言」

○近藤功行



15. 西日本社会学会第 66 回大会、平成 20(2008)年 05 月 10 日(土)~11 日(日)、於)活水女子大学(長崎市)
「生命の科学と倫理に関連した時事分析を通してみる現代社会の課題」
○近藤功行
16. 人類働態学会第 43 回全国学会、2008 年 06 月 21 日(土)・22 日(日)(【近藤功行:本学会・学会長(担当)】。於:沖縄キリスト教学院大学。→本学会は 2 日間であるが、この前の日に 1 泊 2 日での「夏季研修会(参加希望者のみ)」を国頭村楚洲・あさひの丘(特別養護老人ホーム北斗園関連施設:小中学校廃校跡に福祉施設開設)を実施し終了。
17. 第 31 回岡山県介護福祉研究会・第 25 回中国四国介護福祉研究会、平成 20(2008)年 6 月 14 日(土)13:00~、於)きらめきプラザ(岡山市)
「介護福祉士養成校の専門学校・短期大学・大学における教員の価値を考究する視点」
○近藤功行
18. 日本民俗学会第 60 回年会(研究発表)、平成 20(2008)年 10 月 04 日(日)、於)熊本市民会館(熊本市)
「与論島における洗骨習俗の現況—1986 年からの継続調査より—」(ポスターセッション)
○近藤功行
19. 第 73 回日本民族衛生学会総会、2008 年 10 月 26 日(日)・27 日(月)、於)パシフィコ横浜・会議センター
「与論島における自宅死亡の現状—1986 年から現在に至る調査研究を通して—」
○近藤功行
20. 第 40 回沖縄県公衆衛生学会、2008 年 11 月 14 日(金)、於)南城市文化センター”シュガーホール
「医療・保健・福祉アウトカムの視点・視座からみた、公立施設の存在の意義—当初の設立意義とその後の民営化移行の現状を考える—」
○近藤功行
21. 鹿児島民俗学会 11 月定例会、2008 年 11 月 30 日(日)10:00~12:00(黎明館:鹿児島市)
「与論島の死生観の再考」
○近藤功行
22. 第 11 回日本在宅医学会(順天堂大学医学部公衆衛生学教室丸井英二教授より依頼:鹿児島市で学会あり)、2009 年 2 月 28 日(土)~3 月 1 日(日)、鹿児島県民交流センター(大会長:ナカノ在宅医療クリニック 院長(鹿児島大学医学部臨床教授)・中野一司)、登録番号 0007
「与論島における在宅ターミナルケアの現状—1986 年からの継続研究より—」
○近藤功行



23. 日本民俗学会第 61 回年会(國學院大學:東京都渋谷区)、2009 年 10 月 04 日(日)11:30~11:55
「与論島の死生観をめぐる継続研究から—民間企業の事業所誘致が島の在宅死をバックアップする背景—」
○近藤功行
24. 第 74 回第日本民族衛生学会総会(ポスターセッション口演)、京都大学(京都大学医学部公衆衛生学教室主催)、2009 年 11 月 12 日(木)・13(金)・京都大学百周年時計台記念会館(通称・時計台ホール)
「現代日本における周産期医療の現状—「生まれること」と「しぬこと」の前者が出来なくなった地域医療の現場から—」
○近藤功行
25. 第 49 回日本心身医学会九州地方会(一般口演);2010 年 2 月 6 日(土)・宮崎 JA AZM ホール
「我が国の周産期医療をめぐる現状—心療内科領域、学校教育現場での「命」をめぐる教育で寄与できる視点」
○近藤功行・秋坂真史
26. 第 75 回日本民族衛生学会(示説:ポスターセッション);2010 年 9 月 26 日(日)・北海道大学学術交流会会館(北海道大学大学院医学研究科国際保健医学分野主催)
「死生観教育と医療の接点に関する学際的研究—沖縄3離島・与論島との調査研究から得られるもの—」
○近藤功行
27. 第 69 回西日本社会学会、2011 年 5 月 22 日(日)・島根大学教養棟(口演)
「ライフサイクルと近代化のなかで—死生観研究のもたらす意義から—」
○近藤功行
28. 日本ホスピス・在宅ケア研究会第 19 回沖縄大会、2011 年 7 月 17 日(日)沖縄コンベンションセンター(午前・午後で示説)
「与論島における伝統儀礼の消失と死生観に関連するフィールドワークの展開」
○近藤功行
29. 第 76 回日本民族衛生学会(ポスターセッション)。福岡大学メディカルホール(福岡市)2011 年 11 月 23 日
「精神障害者・回復者の理解、就労に関する視点を高校生に教示する重要性—ひらめき☆ときめきサイエンス(2008・2010・2011 年度採択・実施)の経験から—」
○近藤功行
30. 第 70 回西日本社会学会、鹿児島大学(鹿児島市)、2012 年 5 月 19 日(土)
「琉球文化圏4離島における中学校アンケート調査から—教育と医学、特に地域



の死生観とその伝承性を生徒の中で探る視点—」

○近藤功行

31. 第 72 回西日本社会学会、西南学院大学(福岡市)Ⅱ-503 教室、2014 年 5 月 11 日(日)「沖縄・奄美群島地域からみる長寿科学研究の視点」

○近藤功行

32. 第 46 回沖縄県公衆衛生学会、那覇市(沖縄県市町村自治会館大ホール(2 階))、2014 年 10 月 28 日(火)09:40~09:50

「胃瘻・人工呼吸器を考える視点—高齢者・後期高齢者でふりかかる疾患も加味して—」

○近藤功行

33. 第 47 回沖縄県公衆衛生学会、那覇市(産業支援センター3階(304))、2015 年 10 月 30 日(金)

「沖縄県内各自治体の集団検診時における PSA 検査普及の重要性—対策型がん検診・任意型がん検診の位置づけの中で—」

○近藤功行

34. 第 64 回西日本社会学会、保健医療経営大学(福岡県みやま市)、2016 年 5 月 21 日(土)

「「排尿・排便」記録をめぐる保健社会学的研究—前立腺癌患者の実例から—」

○近藤功行

35. 第 36 回時間学研究会、保健医療経営大学中会議室(福岡県みやま市)、2016 年 8 月 18 日(木)

「人間の身メカニズム—トイレ時刻からみたがん治療影響を探る—」

○近藤功行

36. 第 48 回沖縄県公衆衛生学会、那覇市自治会館(那覇市)、2016 年 11 月 4 日(金)

「前立腺癌の早期発見に向けた取り組み—癌の早期発見につながる PSA 検査導入が明暗を別ける事例から—」

○近藤功行

37. 第 75 回西日本社会学会、松山大学(松山市)、2017 年 05 月 13 日(土)

「愛媛県・沖縄県・山口県における植物工場をめぐる将来像—医療福祉施設・学校現場、特に特別支援学校との接点を探る視点—」

○近藤功行 1)・岩谷 潔 2) 2) 山口大学大学院創成科学研究科(農学系)・株式会社アグリライト研究所(山口大学農学部内)

38. 第 82 回日本健康学会(旧称;日本民族衛生学会)総会、2017 年 11 月 10 日(土)、於)沖縄科学技術大学院大学、「前立腺癌発症・放射線治療後の予後を探る視点—完治に至らない癌との共存をどうとらえるか—」(ポス



ターセッション P3-13 09:00～16:00 掲示・閲覧)

○近藤 功行

39. 第49回沖縄県公衆衛生学会、於)沖縄県看護研修センター(沖縄県看護協会内)、「在宅死亡の与論島、その動向を見据える視点—1986年8月から現地調査を開始した中で—、」

○近藤 功行

40. 第50回沖縄県公衆衛生学会、於)沖縄県市町村自治会館、2018年11月2日(金)、「障害者雇用の重要性—精神障害者雇用に至るまでの視点—」

○近藤 功行

41. 西日本社会学会第77回大会、於)佐賀大学本庄キャンパス、2019年5月29日(土)、「「障害」「障がい」混在使用の現状認識の必要性—定款・学術用語としての「障害」記載を考える視点—」

○近藤 功行

42. 第51回沖縄県公衆衛生学会、於)沖縄産業支援センター、2020年1月10日(金)、障害者雇用における評価法の確立に向けて—「障害」用語の表記(抄録集:pp.16-pp.17)

43. 西日本社会学会第78回大会、於)ノートルダム清心女子大学、2020年5月23日(土)・5月24(日)、「障害」「障がい」表記混在の理解

○近藤 功行 (口演日時未決定段階で、新型コロナウイルス影響で学会延期決定。)

= 2020年5月23日(土)・24日(日)開催予定の当該学会は、報告要旨の提出(2020年9月30日)により「報告成立」Covid-19(新型コロナウイルス)影響で中止のため。

44. 西日本社会学会第79回大会、於)中村学園大学・中村学園短期大学部、学校教育における「障害」表記の定着過程、2021年05月22日(土)12:34~13:04 (Zoomでパワポ使用参加:12:30~13:00 枠。セッション自体は、10:30~13:00迄の参加。)、西日本社会学会事務局(九州大学文学部社会学・地域福祉社会学研究室)

45. 西日本社会学会第80回大会、於)神戸学院大学ポートアイランドキャンパス) 新聞記事にみる障害/障がい記載の現状、2022年05月8日(日)、(Zoomでパワポ使用参加:10:30~12:30 枠。セッション自体は、10:30~13:00迄の参加。)

(その他)

[01]出版社取材による掲載

=====

日本一の在宅終末にびっくり 30年の歳月をかけた研究史(近藤 功行) たましいの



島と論島に ときどき たましいの島を歩く p.9(顔写真掲載)、2018 05 9月号、
株式会社ソーシャルサービスニッポンときどき探訪編集部(東京)、2018

=====

[02]新聞社取材／依頼による掲載

=====

- ・南海日日新聞:2006年10月17日(火)6年、与論の「在宅死」を論文に「家(ヤー)」
で継承される宗教観 近藤教授(沖縄キリスト教学院大)
- ・沖縄タイムス:知への誘い—研究室を訪ねる—(14)2010年10月3日(日)文化
13面 島の死生観、日常と共存
- ・愛媛新聞社:2011年12月28日(水)大型コラム「道標 ふるさと伝言」総合10面
[1]2012年1月22日(日)総合1面、これまでの軌跡 大学新設人生の転機
[2]2012年2月26日(日)総合1面、在学死と終末期医療 与論島にみる死生観
[3]2012年4月1日(日)総合1面、離島研究の意義 死生観知る資料蓄積
[4]2012年5月6日(日)総合1面、生きることを学ぶ 深い人間性に収め
[5]2012年6月10日(日)総合1面、本土復帰40年 沖縄内外の思い結集
[6]2012年7月15日(日)総合1面、精神障害者への理解 「気持ち」の考慮重要
[7]2012年8月19日(日)総合1面、大学院の意義 研究への努力 財産に
[8]2012年9月23日(日)総合1面、今夏の闘い 大学に詰め報告作成
[9]2012年10月28日(日)総合1面、伝統行事と休校 文化継承 愛郷心育む
[10]2012年12月2日(日)総合1面、新居浜人の気質 こつこつと仕事完遂
- ・有明新聞社:2017年9月16日(土)3面、大人の1年は短い?新しい領域・時
間学 保健医療経営大で広がり(写真:分析結果を報告する近藤教授)
- ・2018年9月:日本一の在宅終末にびっくり—30年の歳月をかけた研究史、ニッポンときどき—
探訪 たましいの島 与論島に ときどき たましいの島を歩く、p.9(2018年9月号、株式会
社ソーシャルサービス(東京))に、近藤功行の紹介あり(著者カラー写真3.9×3.9cm、22文字
×11行&著者紹介文章3行)。主に郵便局に配付する雑誌の取材ときどき探訪『与論島にとき
どき』協力(取材担当:株式会社ソーシャルサービス野中美保)。
- ・琉球新報社:古堅一樹編集局社会部記者
2019年3月14日(木)社会32面 沖縄 空白の風景 13 変わりゆく社会のかたち
法要繰り上げ一般化、簡素に、記事中で近藤功行の取材コメント掲載あり。

=====

[03]入試／模試問題等での自著採用

- ・筑摩新書掲載文の採用、2018年度・2020年12月～2021年冬季時、あり。
学校法人駿河台学園駿河台予備学校(駿台中学生テストセンター)

=====

[主な社会活動等]

- ・沖縄県ハンセン病証言集編集委員会編集委員 2005-2007
- ・沖縄県立読谷高等学校3年4組(ホームルーム講話)、平成17(2005)年度



講演演題:「私の歩んだ道」(永山保教諭クラス)

- ・沖縄心身医学協会公開市民講座・講師、平成 18(2006)年度
- ・特別養護老人ホーム奄美佳南園(奄美市:旧名瀬市)職員勉強会講師、平成 18(2006)年度
- ・沖縄県高等学校福祉担当教諭対象勉強会・講師、平成 19(2007)年度
- ・教員免許更新講習・講師、平成 21(2009)年度/平成 31(2019)年度
- ・沖縄県医師会座談会出席「DNARと尊厳ある終末期医療について」2009
- ・沖縄県高等学校福祉担当者教諭対象勉強会・講師、平成 19(2007)年度(於:陽明高等学校)

[所属学会]

- 日本民族衛生学会(2003年11月~評議員)
- 日本公衆衛生学会(2011年4月、専門家認定資格授与)
- 日本人類学会
- 沖縄県公衆衛生学会、ほか

[受賞]

- 近藤功行:平成26年度「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」授与(独立行政法人日本学術振興会理事長 安西祐一)平成26年7月1日([学振助二第15号])

【その他】

[(1)モットー]&[(2)ひと言]

- (1)「来る者拒まず、去る者追う」「人の話を聞かずに死んだ人もいる」/(学生向け会話)
- (2)1986年8月から与論島に(『与論町誌』p.1259に、近藤功行紹介あり)。1987年4月から6年間沖縄在住(日本学術振興会特別研究員DC=琉球大学、PD=山口大学[共に第1号])、山口大学・産業医科大学・大分医科大学非常勤講師(他)、川崎医療福祉大学医療福祉学部助手・専任講師、志学館大学法学部助教授(旧文部省大学設置教員組織審査合格)を経て、2003年4月から現職(→沖縄を離れて10年目、琉球海運のコンテナで引っ越し。当時の写真、消失。本学[学部・大学院]教授審査[文科省大学設置教員組織審査合格])。「本学の学生は元気があり、主体性がある」と画一的な中で、個性を消失しまわぬ学生になって欲しい。「Number oneでなく、Only one」は、そもそも登山家マロリーから。(近藤功行)。